



昌子 久仁子

テルモ
取締役上席執行役員

経済同友会 つながる▶▶

リレートーク #218

理科教室の楽しみ



浦野 邦子

コマツ
常務執行役員

私が勤めているコマツが、周年事業の一環として創業の地である石川県小松市に「こまつの杜」を開園して5年になる。ここのコンセプトは、「地域との共生」「子供たちの育成」そして「定年世代の参画」である。年間5万人が来園してくださるようになり、園内の整備から日々の対応、イベントの企画・運営は会社OB・OGの協力なしには成り立たない。中でも子どもたちの理科離れのニュースは、OB・OGの方たちのチャレンジ精神に火を付け、「身近な現象を楽しく解きあかす理科教室」が企画され、開園以来の人気イベントとなっている。

テーマも「ブルドーザは力持ち」「こども鋳物教室」「人間電池であそぼう」などさまざままで、出前教室も行っている。会場に顔を出すと、活き活き、はつらつとした子どもたちとOB・OGの方々に出会える。うまくできてもできなくても、真剣なまなざしで取り組む子どもたちの様子を見るのは本当に楽しい。

数人のチームでの実験が多いが、見ていると、黙々と手を動かす子、まず口が動く子、指揮を執りたがる子、うまくいかないにご破算にする子、少しずつ条件を変えて試そうとする子、実にさまざま、まさにダイバーシティそのものである。また企業では「リケジョが少なく」と教育のあり方が議論となるが、女の子の参加者も少なく、リーダーとして男の子を従えている子も目立つ。小学生時代には何の違ひもなかったものが、大人になる過程で道が分かれてしまうことが多いのはなぜなのだろうか。

一方OB・OGの方々からの第一声は、「社員に教えるよりも子どもに教える方が何倍も難しい」だった。ヒントは出すべきだ、いやダメだ、こういう工夫が必要だと侃々諤々^{かんかんがくがく}の議論の末、市販ではぴったりのものがないので教材を手づくりし、目がショボショボした、とうれしい悲鳴も上がる。

2時間ほどのイベントであるが、見学の大人にとってもいろいろなことを考えさせられる貴重な体験である。息長く継続することが何よりも大事だとあらためて感じるとともに、自分の身近でもできることは何であろうかと、楽しく悩みながらの帰途となる。

▶▶ 次回リレートーク

織田 浩義

日本マイクロソフト
執行役 常務